



若松南海岸通り想像図（昭和初期）



若松南海岸通り（現在）

NPO法人北九州建物遺産トラスト

吉崎 祥(NPO理事)

私が現在所属しているNPO法人北九州建物遺産トラストは、近代工業都市のイメージの濃い北九州市に残る歴史的建造物の新たな発見と、既に国、県、市などの行政によって指定されている建造物を大切な社会資本として次世代に継承していくにはどうしたらよいかを提言し市民とともにその将来を考えることを目標として2020年10月に結成されました。その結成時に、この目標を実現するために、主に3つの具体的な目標を掲げそれぞれを実践することで、活動を深化させられるのではないかと考えました。

■第1は現在私たちの事務所が入っている登録有形文化財上野ビル（これについては本年、建築静岡の春号でご紹介いただいております）の将来に向けての展望を考えると云う事でした。

これを考える事は同時に全国に多く存在する登録有形文化財の共通する課題ともいえるのですが、将来継承者が無くなったり、世代交代した時にどのようにそれを継承して行くのかということでもあるのです。規制の緩い分、助成も少なく所有者に大きな負担がかかり、その存続が大きな課題となりそうだと云う事です。この課題は建築関係者だけでなく継承方法を多くの市民と共に考えるべきだと考えており具体的な実践のケースとして、「この上野ビルを含む若松南海岸の歴史的建造物と現代が混在している景観がかけがえのないものである事」をより多くの人に訴えるイベントを開催してきました。その成果は直には表れるものではありませんが少しずつ若い世代や興味を持ってくれる市民に浸透してきているようです。特に上野ビルは、SNSでもよく発信されるようになり、魅力のあるショップの存在もあって、市外からの来場者も見られるようになりました。私たちは、このエリアに残る建築や土木遺産と現代の暮らしが、洞海湾という海の変化する景色と相まって魅力的なものであること、市民の共有財産として大切なものであることを今後も伝えていきたいと思っています。

■第2の目標としたのは結成時、偶然会員からの情報



河野家の外観

で発見した北九州では既に絶滅したと思われる茅葺民家が里山の景観と共に残っていること更に驚くことに既存住宅地から車でわずか10

分という近郊にあると云う事でした。この貴重な存在を里山地区の高齢化と共に消滅させるのではなく、この建物を地域の誇れるシンボルとしてまた活性化の拠点として継承するために登録有形文化財の指定を目指して調査、働きかけを行い、現在申請手続きまで終えて



同 小屋組

その結果を待っている段階です。これは単に保存という活動ではなく地域の環境改善や養蜂といった地域内の新しい活動や地元大学が既に行ってきた地域創生（地域住民と一体になった農業活動などが行われている）のシンボルとして活用し、地域住民に誇りと自信を与えるという目的を持っています。そのためのイベントやワークショップも計画し、多くの市民や多世代の人、特に子供たちに体験してほしいと考えています。

■第3はこの様に一口に歴史的建造物といっても前述の例でも分かるように、それぞれの場所や作られた時代背景によってその価値も社会ストックとしての在り方も異なっています。そこで私たちは専門家としての視点も勿論大切ですが、より多くの人達、地域住民や市民その中でもこれからの社会の中心となっていく世代の人達にこれらの建造物などが身近な存在であり、常に日常の会話や議論の中に普通のこととして登場することが大切だと考えています。

今までこれらの事を見据えたシンポジウムやイベントを開催してきましたが、更に進んでこれらの遺産を具体的に使用したイベントを開催してその魅力を具体的に体感してもらったり実際にこれらの建物でテナントとして商売をしたり事業を行っている方々にメッセージを発信してもらうことも大切だと考えています。この事がより多くの人に共感してもらう有効な手段だと確信しています。

その中から生まれる新たな活用法や建物を継承するための方法を見つける事が、これからの文化財をはじめとする建造物の将来の方向を決めるのではないかと考えています。こんな活動を続ける中で、今年は少しチャンスを頂きました。NHKブラタモリの番組の中で若松南海岸の事を取り上げていただく事が決まりました。今月、10月7、14の2週にわたり放映され、それにより分かり易い言葉や映像で見られれば更に多くの人達と共感し共に将来を考えて行けるのではないかと期待しています。特に海から見た近代産業都市の盛時の様子が、実感できれば、現在まで継承されてきたその魅力が体感できるのではないかと考えています。